

令和4年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	保護者や地域・大学の人材を活用した 新しい子育て支援のカリキュラム開発
事業実施代表者名	藤谷 毅 附属函館幼稚園 副園長
実施附属学校名	附属函館幼稚園
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>附属函館幼稚園では、平成22年度に全国の国立附属学校では初となる預かり保育を開始して以来、園のスタッフや保護者・地域・小学校・大学・大学院などの人材が協力して、「預かり保育」や「子育て支援事業」を展開することによって、「通常の保育活動」と「預かり保育活動」の有機的な連携を図り、その教育効果を高めることや、保護者の互助によるより豊かな子育て支援の場と経済性を兼ね備えた新しい「預かり保育」の形態を次の4つの場として提案し、事業を展開してきた。</p> <p>①「家庭生活との連続性を考えながら、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で過ごすことができる場」</p> <p>②「教育課程に関わる保育時間や家庭では経験できない活動、かわりを経験することができる場」</p> <p>③「子育てに関する情報を得、保護者同士が気軽に相談でき、保護者の子育てを具体的に支援する場」</p> <p>④「保護者を含む地域の人的資源を活用することにより、在園児全員の成長にかかわる連携的意識を醸成する場」</p> <p>この4つの場において、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「わくわくの日」－異年齢の友だちとともに好きな遊びをしながら、家庭的な雰囲気で過ごす日 ○「イベントの日」－お母さん先生や外部講師の方などをお招きして、企画した楽しい活動をして過ごす日 ○「講座の日」－外部講師をお招きし、何回かにわたり、子供が楽しく取り組みながら習い事をする日 ○「学生企画の日」－本学のゼミ生や部活動・サークルなどの学生などが、教育課程外の企画をし、園児と交流する日 <p>の4つの具体的な形態を作って預かり保育を行ってきた。</p> <p>今年度も、新型コロナウイルス感染症蔓延予防の観点より、活動場所を絵本部屋から遊戯室という保育スペースの拡充を行ったり、外部講師の人数を制限したりするなど、活動が制限された部分はあったが、その状況に最大限対応できるよう、形を変えるなど趣向を凝らし、行事による振替休園日を含め、毎日預かり保育を実施している。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<p>成果としては、毎朝・毎日及び夏季休業・冬季休業・年度末休業にも実施し、預かり保育の充実をはかった。新型コロナウイルス感染予防のための預かり保育は総回数約200回以上、のべ2500人以上の園児が参加し、1回あたりの平均が15人、最大時には約30人近くの参加があった。就業者にとっては待望の毎日の預かり保育実施となっている。今年も新型コロナウイルス感染が激しいときは大学の学生と教員が企画したゼミ生による預かり保育の学生企画を「お家であそびっこ」として、通常預かり保育を利用しない家庭に対しても、預かり保育での遊誘材を提供し、園児と保護者に好評を得た。これまで行っていたその他、大学ダンス部のよさこい講座や外国人の先生による中国語などは、今年度も実施出来なかったが、毛筆を使ったもじ遊びや茶道、あそびっこなどは函館での感染の状況を見ながら数回実施し、好評を得ていた。習字を書く「もじあそび」では外部講師画が制限されるようになってからは、預かり保育担当保育者が講師となって実施していた。園児はより多様な体験を教育課程外に園内で経験できるようになった。</p> <p>これらの取り組みを、保護者のニーズを捉えながら、さらに新型コロナウイルス感染症蔓延予防対策を念頭に置きつつ、幼児教育の無償化に対応できる質・量ともに充実した預かり保育の充実を図っていきたい。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>朝預かり・延長預かり・長期休業中も含む毎日の預かりが完全実施となっている。子育て支援の見地からは、就業者のニーズに応じることが実質上可能である。これにより、預かり保育利用者数が急増しており、預かり担当教諭の確保が必要になってきている。また、教育課程内の教諭と預かり保育担当の非常勤講師との打ち合わせや引継ぎをより綿密にしていく必要性も高まっている。さらに、時間や回数の面でニーズを捉えて常に改善していく必要がある。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>HPで公開 園児募集ポスターで紹介 園児募集案内で紹介 体験入園時に説明</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

支出実績額内訳

(附属学校名)

区 分	予算額	支出実績額	内訳 (簡潔に記載すること)
非常勤講師料	81 千円	81 千円	\1,200×67時間 (不足時間は通常非常勤講師枠から支出)